

15 カンニング^{だんぎ}談義

P. 75

四^し苦^く八^は苦^く

丸^{まる}暗^{あん}記^き

一^{いち}夜^や漬^づけ

どろなわ

人間のあらゆる苦しみ。大変^{くろう}苦勞すること。

意味も考えずに、そのまま全部覚えること。

野菜^{ひとばん}を一晩だけ漬けた浅^{あさ}漬^{てん}け。転じて、短時間に大急ぎでやる勉強。

泥棒^{どろぼう}を捕^とらえてから縄^{なわ}をなう意。ものごとが起こってしまってから準備を始めること。

P. 76

一ことはおろか

必要^{せま}に迫られて

一ことはもちろん。

必要なのでしかたなく。

P. 77

よほどの一でないかぎり

あっけにとられる

いい加^か減^{げん}に

よほどの一ででもなければ必ず。

驚^{おどろ}いてぼうっとする。

ろくに考えもせずに、でたらめに。

P. 78

魔^まがさす

一としか思いようがない

一はめになる

ぞうっとする

気持ちの負^か担^{たん}になる

心の中に悪魔^{あくま}がしのびこんだように、日ごろからは考えられない行動をする。出来心^{できごころ}を起こす。

それ以外は考えられない。

好^{この}ましくない状^{じょう}況^{きやう}におちいる。

「ぞっとする」の強調形。恐^{おそ}ろしくなる。

心^{おも}の重荷^{おもに}になる。

P. 79

書き入れ時

帳簿^{ちょうぼ}の記入^{きにゅう}に忙^{いそが}しい時。転じて、繁盛^{はんじやう}して忙しい時期。